

ほとけの 混和会だより

平成三十一年一月

東光院

仏の混和会

第138号

謹賀新年



本年が皆様にとりまして
良い年になりますよう
心よりご祈念申し上げます。

平成三十一年元旦

合掌

東光院檀信徒の皆様におかれましては、つつがなく平成三十一年の新春を迎えられたこと存じます。
心よりお喜び申し上げます。又昨年は檀信徒の皆様は元より、寺総代様又護持運営委員の皆様のご協力を賜り、無事法務を勤めさせて頂く事が出来ました。誠に有り難いことと謹み御礼申し上げます。そしてこの「混和会だより」お陰を持ちまして二十年の歳月を重ねることが出来ました。

これも偏に皆様のご協力があればこそと重ね重ね感謝申し上げます。第一号の発行は平成十一年の秋、横尾忠さんの仏教の宗教観、そして横尾勝行さんには自ら体験された御仏の導きを綴って頂きました。
以来私自身も、このお便りを綴りながら、仏の世界と己自身を見つめて参りました。本年も皆様のご協力を仰ぎこの世も来世も御浄土と成るよう努めて参りたいと存じます。

三宝に帰依

さて昨年平成三十年度の世相を表す漢字として「災」の文字が選出されました。

日本漢字能力検定協会がその年をイメージする漢字一字の公募を日本全国より行い、その中で最も応募数の多かった漢字一字を毎年十二月十二日「漢字の日」に京都清水寺の貫首様が清水の舞台にて大きく書き記し全国に発表しておられます。

昨年はバウハラ問題や仮想通貨ハッキング流出問題などの「人災」そして、記録的な豪雪、過去に例の無い豪雨、更に猛烈な台風などの「自然災害」などが猛威を振るった年でした。

よって「災」の文字が選ばれたのは当然のように思われます。

しかし人々が「災」の文字を選出された思いの裏には、私達の生きる環境が大きく変貌して人と人、共に信じ合えるよりどころを失ってしまった寂しさ、そして欲望の渦巻く競争社会が招いた環境破壊による異常気象など、生きる事の様々な戸惑いと不安から「災」と言う文字を選ばれたようにも思われるのです。

権力や威厳の誇示そして限りない欲望が招いた人災、更に地球温暖化による自然災害、このよきな社会を私達はどのように歩んで良いのか不安はつきません。実はこのような苦しみの社会に於いて、私達が生きて行く指針

と成るように、ブツダは先ず「三宝に帰依しなさい」と教えを説いて下さっております。

この「三宝に帰依」と言う御教えは聖徳太子様も十七条憲法の中で「篤く三宝を敬え」と記しておられます。

この三宝とは仏法僧のことを言います。

先ず「仏」とはブツダのことで、大自らの真理に目覚めた人であります。よって大自らの大いなる生命を敬い尊びなさいと示されたのです。

次に「法」とはブツダの御教えを言います。それは私達は大自然の営みの中に抱かれ生かされている、その事実を明らかに見極めなさいと言う事です。

そして「僧」とは、僧侶のことではありませぬ。インドの言葉で「サンガ」と言う言葉を漢字で僧伽と訳して「僧」と言っているだけでブツダの御心を会得しようとして集まったグループのことです。

このブツダの御心「仏心」を抱く人々の集うところは、共に他の苦しみや悲しみを感じて、共に他の幸を願います。ですから生きる事の指針や喜びそして大いなる安心を抱く事が出来ます。

この共に「仏心」を抱く環境に於いては「人災」、そしていざれおとずれる厳しい「自然災害」も乗り越えることが出来ます。

よって本年度は「僧」このサンガ構築の為、共に仏心を育みながら御浄土を築いて参りたいと存じます。

合掌

亮観拝



今回は新年特別号と題し今年の干支である『亥』に纏わる話を。厳密にはフタですが、「猪」と名にある「猪八戒」について紹介します。

● 新年号 猪八戒

(正式名 猪悟能) ちよんぐう

三蔵法師が天竺まで経典を取りに行く過程を書かれた仏教物語「西遊記」。そこに登場する旅の仲間一人が「猪八戒」です。

元々は天界で天の川を管理し、水軍を指揮する偉い神様でした。

しかし、大食いかつ酒癖が悪く、酔った勢いで月の女神に強引に言い寄った事から天界から追放され地上に落とされてしまいます。

地上では真面目にやり直すはずが、誤って豚の体に入ってしまった、豚の妖怪として生まれてしまいます。

天界にも帰れないうえ、豚の妖怪になってしまった絶望から、人を喰らう化物となり暴れ回っていた所、観音様が現れ「いざれ天竺まで経典を求めぬ僧侶が現れる。彼の弟子となり功德を積むのなら、来世では天界に生まれ変われるだろう。」



それを求めぬ僧侶が現れる。彼の弟子となり功德を積むのなら、来世では天界に生まれ変われるだろう。

と言われます。

その言葉を感じた此物は改心を決め、観音様より「猪悟能」(猪でも悟れる事ができる)という法名を頂きます。また、自ら功德を積み精進する為、五葷(修行中食へては成らない五つの野菜ニンニク・玉葱・ネギ・らっきょう)と三厭(牛・豚・鳥)の計八種は食はず、精進料理しか口にしないと誓いを立て長い間三蔵法師を待ち続けました。

その事を聞いた三蔵法師は、八種の食べ物を食べないという戒を自らに課し、精進してきた事を称え、加えて仏教徒が護るべき八つの戒律も今後は護り、精進するようにと「猪八戒」という別名を頂きました。実は「猪八戒」とは三蔵法師が付けたあだ名なのです。

その後は三蔵法師の旅と自らの戒律を護り、無事に天界へと生まれ変わる事が出来たと言います。

「浄壇使者」の名を授かります。これは、仏様に捧げられた供物を最後に清める仕事を示す名で、簡単に言うと、余った供物を食べて良い。という食べる事を我慢し続けた猪八戒を考慮した仕事でした。お正月、お仏壇にお供え物をした際ご先祖様が食べきれなくなった時には、もしかしたら猪八戒がご相伴にあずかっているかもしれませぬ。

亮澄拝

新年を迎え



一〇一九年の年頭に当たり謹んでご挨拶を申し上げます。本年が皆様にとりまして幸多き一年となりますようご祈念申し上げます。

大豆の脱穀を行いました

去る十一月三日、境内において味噌の仕込みに用いる大豆の脱穀作業を行いました。お手伝い頂いた皆様、ありがとうございました。



暮れの大掃除を行いました

十二月二十二日、境内の大掃除を行いました。大勢の方のご協力のもと、各々境内整備や堂内清掃等に

励み、普段は手の届かない部分の汚れもきれいにしていたいただきました。最後には東光院の手打ちそばを召し上がって頂き解散となりましたが、皆様のおかげで心身ともに清らかな状態で新年を迎えられますこと、改めて御礼申し上げます。

亮敬拝



初詣は深大寺へ

調布深大寺では境内がすっかり正月の様相となり、今年も多くの参拝者が訪れる事かと思えます。今年には授与物(お守りやおみくじ等)アルバイト部門の担当となり九月より準備を進めてまいりました。おそば屋と武蔵野の水と緑に囲まれた深大寺に新年のご祈願に訪れてはみてはいかがでしょう。皆様のご来山、心よりお待ちしております。

